

## 光熱費削減プロジェクト

佐藤芳郎（北海道会）

東日本大震災における福島第一原子力発電所の事故は多方面に甚大な被害を及ぼし、今後のエネルギー政策にまで大きな影響を与えています。それと同時に、自然エネルギーへの転換論が浮上しています。

当社では、他異業種2社の事業が平成19年度に北海道経済産業局の「新連携事業」札幌市建設業経営資源活用型モデル事業などに採択され、北国で普及率の低い太陽光発電システムを装着したパッシブ換気住宅で光熱費を80%削減できないかと、北海道大学や道などとともにプロジェクトに取り組んできました。

実験として当社屋上に太陽光発電システム3.65kWを設置し、段差（正段差、逆段差）や隙間を開けるなど3種類のグループをつくり、各発電効率をパソコンに取り込み、3期にわたり記録しました。その結果、逆段差を用いたものに一定の効果があることがわかりました。これについては特許を取得し、現在スノードロッパーとして商品化され、市内の住宅や学校の太陽光発電システムなどに取り入れられています。

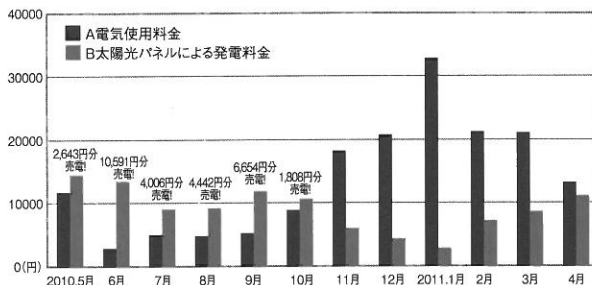
さらに、太陽光発電システムを装着したパッシブ換気住宅はCHEER HOME（チアホーム）として現在までに6棟を受注しております。そのうちデータが採取可能な、札幌市清田区にある1棟では光熱費が年間6万円弱という結果が出ています。また、降雪がほとんど無い白老町で施工したケースでは、光熱費が年間0円という結果も出ました。

また、一般消費者への告知として年数回の公開講座を平成19年から行っています。消費者の宿泊体験の場として受注第1号の白老の別荘K邸に協力いただき、マーケティングの分析も行いました。

今後、自然エネルギーへの流れが北国の住宅にも

影響することは必至であり、これを機に降雪地域での太陽光発電システムなどの普及率を上げたいものです。

Kさんご提供の2010年5月～2011年4月のデータ



### ● K邸の年間電気料金

(Kさんご提供の2010年5月～2011年4月のデータ)

・年間電気使用料金	Aの合計	165,608円
・太陽光発電パネルによる、年間発電料金(売電料金)	Bの合計	108,672円
・実際に支払った年間電気料金はこれだけ!		56,936円

★オール電化住宅の場合の一例。さまざまな組み合わせが可能です。  
★雪の少ない白老では、パッシブ住宅+太陽光パネルによる発電で、年間で実際に支払った電気料金が0円というお宅も。諸条件により異なりますので、ぜひ一度、ご相談ください。

## 復興の力は世代を超えて

長島建夫（富山会）

東日本大震災から5カ月以上が経過しましたが、被災地の多くが解消されぬ困難をいまだに抱え、被災者たちの苦しい生活ぶりをテレビ報道で知る日々が続いています。政府や自治体、地域住民のほか、全国のNPO、ボランティア、企業、医療機関、学校関係者など、様々な方が復興への道を模索しています。また、現在も多くの方がボランティア活動を続けており、外国から心温まる支援も届いています。あまり名前を聞くことのない国や、途上国といわれる南洋・アフリカの国々からも多くの支援と励ましのエールをもらい、その優しさに胸が熱くなる思いです。

震災により原子力発電所の安全神話は崩れ去り、